玉名女子高等学校　「学校関係者評価」　実施要項

令和元年４月

１．目的

学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員）にもとづいた自己評価の結果を評価することを通して、自己評価の客観性・透明性を高め、学校・家庭・地域が共通理解を図ることにより、連携協力し、学校運営の改善に当たることを目的とする。

２．学校関係者評価委員会の構成

保護者代表及び法人評議員とする

３．学校関係者評価の実施

①　自己評価の結果の提示を受ける。

②　評価に先立ち、学校行事の参観、施設・設備の視察をする。また、教職員や児童生徒との対話等を行い、学校状況についての理解を深める。自己評価の結果を踏まえた、今後の改善方策について評価する。評価に必要な事柄があれば、請求し検証する。

②　実施時期　　自己評価及び生徒・保護者アンケート　（１２月実施）
まとめ資料の作成（１月）
学校関係者評価委員会（５月、２月頃）

４．報告

学校関係者評価委員会は、評価の結果を取りまとめ、報告書を作成のうえ校長へ提出する。

５．結果の活用

学校関係者委員会の報告をふまえ、自己評価の結果に基づく今後の改善方策を、次年度の重点目標の設定に反映し、具体的な取り組みの改善に用いる。また、これにより、教職員の課題に対する共通理解を促進するとともに、改善への意識の喚起となるよう活用する。

さらに、改善の必要のない一層促進するべき事項について確認をし、特色ある学校づくりに活かしていくものとする。

令和元年度　玉名女子高等学校　学校関係者評価報告

学校関係者評価委員会

実施日　令和２年３月２７日（金）

出席者　法人評議員と保護者代表ＰＴＡ役員

○　平成元年度参観行事：包丁授与式・創立記念式・文化祭・体育祭・戴帽式等

○　自己評価の分析について　資料の配布と説明（校長）

○　感想・意見や提案（評価者）

重点目標（１）基礎学力の充実のための取り組み　専門性習得のための指導力強化

授業に対しては入学生数と教員数のバランスがあると思う。教員が増えたとの報告があり、次年度の改善につながる。

「主体的で対話的な深い学び」は小中学校に限らず、高等学校でも求められていることである。授業改善については一人ひとりの教員が今の自分の授業がどういうものかを自覚し、求められている授業に自分の授業を近づけていくことが大事。公開授業発表会、ＩＣＴ活用の授業研究等々、毎日の学校活動でさらに充実させていけばよくなる。そのために、先生方にとって成果の期待できる研修の実施が必要である。

読解力が身についている生徒の学力は高い。読書の励行については今後もぜひ進めて頂きたい。

基礎学力の向上は最も望まれる事項である。意欲的に授業に取り組めるような環境づくりが必要。

進路指導室は利用しやすく、就職や進学のための情報を調べやすくするための取り組みが大切。

「この学校に入学してよかった」「先生方はわかりやすい授業になるように工夫している」の肯定感の減少は連動しているものだろう。日々刷新は今色々なところで求められている。

看護科は社会的職業としての需要や、労働・仕事内容が見えるので、高校における学習内容もそのためのアプローチとして子どもたちに解りやすい。国家試験の合格率もよく、専攻科の生徒たちの日常行動、表情にも落ち着きがあるように思う。実習先ではいつも高評価であり、地元の信頼は大きい。

アニメデザインコースは卒業後の進路の保障が必要。生徒たちも内向的でおとなしい。アニメクリエーター、動画クリエーターなど最近よく聞くようになっている。情報関係の企業が世界を席巻するこの時代、高校の学科としての必要性も活路もあるのだろうと思う。

ビジネス科のパソコンや簿記などの資格取得のサポートが必要であり、そのための部活動なども整備する必要がある。

４，５名の生徒が在籍する特進コース、指導する側、される側、そして一般の普通科の

生徒も周囲にいる中、授業の形態や指導方法の工夫などで成果を出してほしい。
　もっと積極的に高大連携に取り組まれてはどうか。

重点目標（２）基本的生活習慣の確立を図るための取り組み
　それぞれの学科やコースの勉強、部活の練習をすることの基盤は、建学の精神に含まれる基本的な生活習慣が身につくようにすることだと思う。これらの項目は一事が万事、できる人は何でも豊かにできるようになり、ゆくゆく人生が豊かになる。
　女子の高校なので、社会で求められる常識的な、簡単な礼儀作法を身に付けさせることも大事。多目的室の活用を考えていくとよい。

重点目標（３）文武両道（教師によるマネジメント）
　全体として(学校生活、教務体制、部活動など)高い評価だと思われる。特に国際交流、部活動指導など高い評価である。ボランティア活動の評価が低いので、活動が活発になり生徒評価が高まることを期待する。
　わかりやすい授業、部活動の指導で先生方の指導力が評価されているのはうれしい。
　生徒の活躍が表に出るよう、先生方は仕掛けを作る努力をお願いしたい。
　生徒の学校生活を充実させることが大切である。生徒のニーズに応じた教育の提供、資格の取得、部活動等の充実などに今後とも積極的に取り組んでいくことが重要。

重点目標（４）人権・同和教育の推進
　一人ひとりを大切にする方針が口コミで伝わっていると感じた。
　最近は公立志向から私立の良さを認めてくれる人が多くなっているように思う。私学の建学の精神に基づいた常にぶれのない教育と、一人ひとりの生徒を大切に育てていくことが認められているからだと信じる。

重点目標（５）働き方改革の推進
　特記事項なし

重点目標（６）魅力ある学校づくりと生徒募集
　小・中学生が減少する中、昨年並みの生徒数は確保された。特に荒尾・玉名地域からの受験者・入学者の増加は評価すべき。受験者が２５８名であったことは学校説明会、オープンスクールなどでの工夫した取り組みの成果であり、地域における学校の評価が高いことの証し。
　「この学校に入学してよかった」で高い数字が出ている。いい傾向なので自信を持ちたい。「ないもの探し」も必要だが、「あるもの探し」「プラスを磨く」ことも忘れないようにしたい。「ここがいいよ」という声を具体的に拾ったらどうだろうか。

長い歴史を持つ玉名女子校の強みは同窓生の多さであろう。いろんな方向で同窓生の“利用”、”活用“を考えていいように思う。スポーツ、料理などもっと露出を狙っていいのではないか。

トイレがきれいになったことや、写真にとれる学校風景(教室や各部屋での生徒の様子)など、視覚に訴えることができるようになった。　美しく整備された環境の中で、生き生きと活動されている姿はとても素敵です。

生徒の活動の様子や学校の特色ある行事や取り組みなどを工夫して発信することも大切。Web での情報発信などいつもタイムリーだと感じている。

学校が一丸となって取り組んでいることに感謝している。

保護者の安心もあるのではないか。三世代卒業という方もいらっしゃるので

・学校評価について

学校評価アンケート結果が数値化・グラフ化されていて、わかりやすく説得力があり、学校の様子がよくわかる。全体結果では、過去と今回のデータを比較し、的確な分析がなされていると思った。

少数意見の声も丁寧に拾うとよい。肯定感の減少している項目は、生徒たちの中に何か日ごろ気づいているがあるのではないか。

分析結果で強みや弱み、課題を明確に把握することができており、改善策を立てやすく実践に繋がるものとなっている。来年度への方針も確認できている。学校全体で共有が図られていることは、次年度以降に大きな役割を果たすと考える。結果の分析から必要な対策を全職員が共通理解して、日々の教育活動や生徒募集に生かされていることは、生徒確保、生徒像に繋がる心強い材料である。

所感

スクールバスの安心・安全の評価が低い。学校運営上大切な機関であり、運転手の研修を行うなど、スクールバス運営が生徒から評価を受けることを期待する。

年頃の女性たちとの寮生活はいろんな問題があって大変だろうと思う。寮母さんもよくやっていると思う。人材確保等難しいと思うが、寮の指導体制も万全にしておかなければならないと思う。